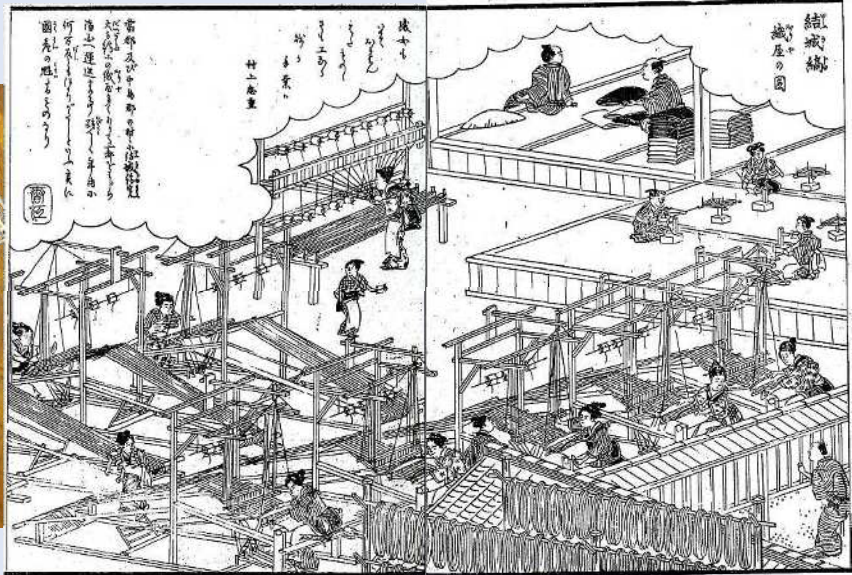


# エコウィーク2023 棉・綿

越谷市教育委員会



現代の綿製品



『尾張名所図会 後編巻5 葉栗郡』より「結城綿 織屋の図」

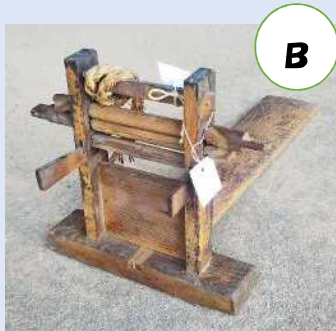
(国立国会図書館デジタルコレクションより 一部改)

分業と協業によって、綿糸から綿布を生産している場面です。江戸時代中期からこのような工場制手工業の方法で綿製品を生産する仕組みが広がっていきました。

人類の進化と衣服には密接な関係があります。その中でワタの普及は、わが国では意外と新しい時期でした。

ワタは「棉」や「綿」の漢字が用いられます。この植物はどのように生育し、私たちの生活にどのような影響をもたらしたのでしょうか。先人たちの残したものから、現代や将来の生活を考えてみたいと思います。

**Q クイズ:** 次の民具のうち、「綿」に関連のある物はどれでしょう。→答えは展示の中にあります。



# 棉の生長過程

和 棉



発 芽



双 葉

洋 棉



破裂：一枚の葉が手の平のようになっている葉。  
和棉と洋棉ではその深さが異なります。



葉裂が深いのが特徴です。

葉の生長



破裂は和棉より浅いのが特徴です。



棉はアオイ科なので、ハイビスカス、オクラ、芙蓉などの花とよく似ています。



開 花

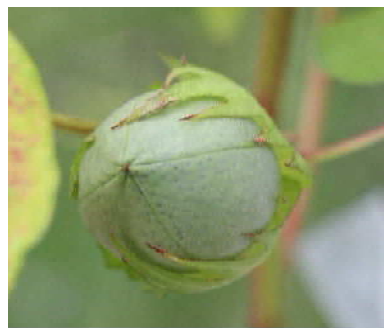


花は黄色や白色が多いです。白色の花の中には、夕方に紅色に変化するものもあります。

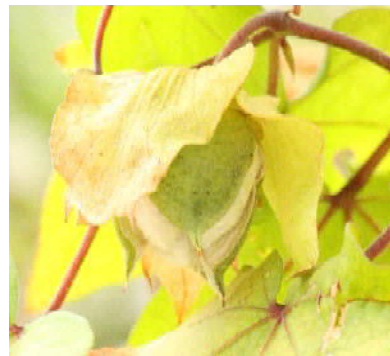


実が下向きにつきます。

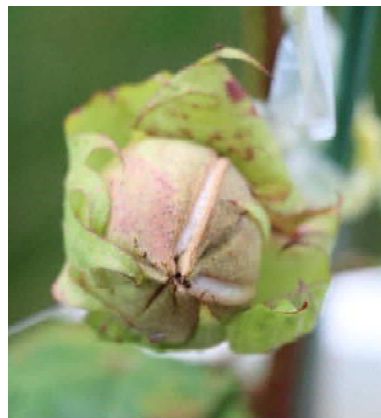
結 実



実が横向き又は上向きにつきます。



開 裂



綿毛が下向きに垂れ下がります。

綿毛露出



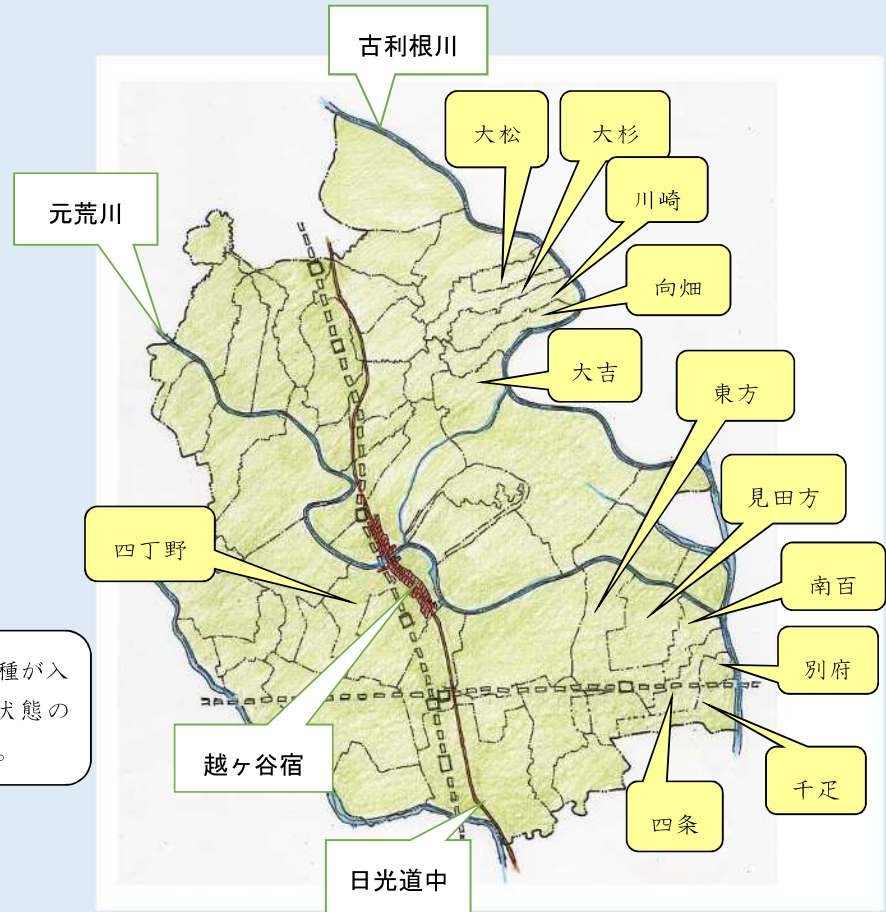
綿毛は上向きです。

明治期

# 市域での棉（綿）生産

村名	人口			生産量 (1貫目≒3800g)
	男	女	計	
千 疋	170	163	333	綿 65 貫目
別 府	35	33	68	綿 25 貫目
四 条	104	95	199	綿 50 貫目
南 百	92	87	179	綿 17 貫目
見田方	161	174	335	綿 900 貫目
東 方	314	343	657	綿 13.6 貫目
四丁野	205	206	411	木綿布 910 反
大 吉	82	106	188	実綿 81.25 貫、木綿布 300 反
向 畑	182	204	386	綿 420 貫目
川 崎	139	140	279	実綿 120 貫目、木綿布 120 反
大 杉	100	100	200	実綿 96.18 貫目、木綿布 350 反
大 松	63	50	113	実綿 88 貫目、木綿布 80 反

「実綿」は種が入っている状態の綿花です。



棉栽培が行われていた地域は、自然堤防上の畑だったと思われます。

この資料は『武蔵国郡村誌』に記述されているもので、明治8年（1875年）以前の状況を示しています。当時の桜井村の史料には、明治中期までは綿の生産が行われていた記録があります。綿以外の繊維として、苧麻（「ちよま」または「からむし」：イラクサ科の多年草）や生糸も生産していました。

# 綿の伝来

## 種類と起源

(『世界有用植物事典』平凡社、『人文地理学辞典』朝倉書店 等による。)

いずれも数千年前からの生育起源があります。

- ◆**リクチメン**(陸地棉)・・・中米(メキシコ付近)起源。現在、世界の綿の70%を占めています。
- ◆**カイトウメン**(海島棉)・・・南米(ペルー付近)起源。エジプト綿もこの一種。
- ◆**アジアメン**(アジア棉)・・・この中で**キダチワタ**(木立棉)はインド起源。**シロバナワタ**は西アジア～インド起源。日本へはこのアジアメンが伝来。

8世紀に東南アジアから日本に漂着した人が初めてもたらしたとの記録があります。(「類聚国史」、「大日本史」)その後しばらくは根付きませんでした。16世紀(戦国末期)から少しずつ栽培、綿布生産が行われるようになりました。そして江戸期には干鰯ほしかや油粕あぶらがすなどの金肥きんぴが流通するようになったこともあり、綿は急速に普及していきました。

# 綿の特徴と効用

- \*アオイ科ワタ属の植物です。
- \*花の色は白色や黄色です。白色の花の中には、夕方に紅色に変化するものもあります。
- \*発芽してから収穫までに5ヶ月くらいかかります。
- \*綿布は麻布よりも**保温性**に優れています。布団には、綿の普及前は藁や麻くすなどを入れていました。
- ★当時の農学者・宮崎安貞は著書「農業全書」(17世紀末・元禄期)の中で次のように書いています。

古木綿が行き渡らない時代には、多くの人が麻布の服だったので、冬の寒気を防ぐことが困難で困苦にたえなかった。幸いにも綿布を作るようになって体をおおうことができるようになり、誠に天恩のなすところであり、綿は天下の靈財(自然の恩恵を受けた尊い財産)というべきものである。

宮崎安貞の言うように、綿の服や夜具が庶民にも普及していくことで、人々の健康維持がそれまでよりも行いやすくなっていきました。さらに綿花や綿布はリサイクルされ、人々の生活に欠かせないものとなっていきました。

- \*その後、明治期まではわが国でも盛んに生産されて近代産業を支えましたが、次第に安い外国産の輸入が多くなって、現代ではほとんど自給できなくなりました。けれども近年は研究用や試験栽培、観光用などで栽培している所もあります。

# 言葉で表す「綿」

## 単語の意味 『広辞苑』(岩波書店)他 より

- \* 「綿」・・・「木」＋「帛(「きぬ」または「しろぎぬ)」の意。特に「綿」の実をつける植物(木)を表す際に用いることがあります。
- \* 「綿」・・・一般的に“ワタ”を指す言葉です。特に「綿毛」や「綿花」の意で用いられます。また、この文字には次のような意味もあります。
  - ◆ 「まとわりつく」→「綿密」
  - ◆ 「連なる」(綿糸のように細長く続く)→「連綿」、「綿々」
- \* 「木綿」・・・「もめん」：綿毛のこと。あるいは綿糸、綿布のこと。
- \* 「木綿」・・・「ゆう」：こうぞ楮の皮を蒸して水に浸して裂き、糸にしたもの。
- \* 「真綿」・・・まわた植物の棉(綿)ではなく、かいこ蚕の繭を引き延ばして作った綿状のもの。

## 慣用句 『広辞苑』(岩波書店)他 より

- \* 「綿のように疲れる」・・・甚だしく疲労すること。
- \* 「土用綿入りに かたひら寒帷子」・・・物事が逆さまであること。季節はずれで役に立たないたとえ。  
(帷子：ひとえ単の着物)

## 俳句

- \* 綿の実を摘みみて うたふこともなし(加藤楸邨)・・・楸邨は昭和4年(1929年)に粕壁中学校(旧制)に教師として赴任しました。この句はその頃の作品です。  
(『春日部ゆかりの文化人』より)

- \* 綿入や 妬心もなく妻哀れ(村上鬼城)